

# 第5次エネルギー基本計画

長期的に安定した持続的・自立的なエネルギー供給により、我が国経済社会の更なる発展と国民生活の向上、世界の持続的な発展への貢献を目指す  
3E+Sの原則の下、安定的で負担が少なく、環境に適合したエネルギー需給構造を実現

## 「3E+S」

- 安全最優先 (Safety)
- 資源自給率 (Energy security)
- 環境適合 (Environment)
- 国民負担抑制 (Economic efficiency)

⇒

## 「より高度な3E+S」

- + 技術・ガバナンス改革による安全の革新
- + 技術自給率向上/選択肢の多様化確保
- + 脱炭素化への挑戦
- + 自国産業競争力の強化

## 情勢変化

① 脱炭素化に向けた  
技術間競争の始まり

② 技術の変化が増幅  
する地政学リスク

③ 国家間・企業間  
の競争の本格化

## 2030年に向けた対応

- ～温室効果ガス26%削減に向けて～
- ～エネルギーミックスの確実な実現～
- 現状は道半ば
- 計画的な推進
- 実現重視の取組
- 施策の深掘り・強化

### <主な施策>

- 再生可能エネルギー
  - ・主力電源化への布石
  - ・低コスト化, 系統制約の克服, 火力調整力の確保
- 原子力
  - ・依存度を可能な限り低減
  - ・不断の安全性向上と再稼働
- 化石燃料
  - ・化石燃料等の自主開発の促進
  - ・高効率な火力発電の有効活用
  - ・災害リスク等への対応強化
- 省エネ
  - ・徹底的な省エネの継続
  - ・省エネ法と支援策の一体実施
- 水素/蓄電/分散型エネルギーの推進

## 2050年に向けた対応

- ～温室効果ガス80%削減を目指して～
- ～エネルギー転換・脱炭素化への挑戦～
- 可能性と不確実性
- 野心的な複線シナリオ
- あらゆる選択肢の追求
- 科学的レビューによる重点決定

### <主な方向>

- 再生可能エネルギー
  - ・経済的に自立し脱炭素化した主力電源化を目指す
  - ・水素/蓄電/デジタル技術開発に着手
- 原子力
  - ・脱炭素化の選択肢
  - ・安全炉追求/バックエンド技術開発に着手
- 化石燃料
  - ・過渡期は主力、資源外交を強化
  - ・ガス利用へのシフト、非効率石炭フェードアウト
  - ・脱炭素化に向けて水素開発に着手
- 熱・輸送、分散型エネルギー
  - ・水素・蓄電等による脱炭素化への挑戦
  - ・分散型エネルギーシステムと地域開発(次世代再エネ・蓄電、EV、マイクログリッド等の組合せ)

基本計画の策定 ⇒ 総力戦 (プロジェクト・国際連携・金融対話・政策)